

2017年 白山開山1300の年を 迎えるにあたって

郡上かるたに「白山目指す美濃馬場」と詠われる白山参りの札があります。



2017年は、その始まりとされる泰澄大師による白山の開山の年である養老元年(717)から数えて1300年目という節目の年にあたります。この機会に白山の開山と美濃馬場の歴史について振り返ってみましょう。

白山は、石川県・福井県・富山県と岐阜県にまたがり、手取川・九頭竜川・庄川と長良川の4つの河川の源に座す山として、古くから畏れ敬われてきました。

水の源として崇敬された白山

岐阜市や名古屋市中からも、遠くに白山の姿を望むことができ、濃尾平野を潤す源として、古代の人たちも遠くから崇敬の念をもって白山の姿を眺めていたことがうかがえます。

泰澄大師の白山開山

奈良時代の越前(現在の福井県)の高僧泰澄大師は、白山の



白山に見える名古屋城の後に
[写真提供: 曾我隆行氏(環境省) 自然公園指導員]

神の導きにより白山山頂に至り、その山頂で、十一面観音などの姿を感じ見たといわれられています。

これが白山開山の由来であり、白山が遠くから拝む山から、信仰のために登る山として開かれる転機となりました。以後、白山は修行のため、参拝する人々で賑わうようになっています。近年、哲学者の梅原猛氏は泰澄大師の大きな業績を「神仏習合思想の先駆者・木彫仏の創始者」として高く評価しており、その思想は円空仏にも引き継がれています。



長滝の長瀧寺に伝わる「泰澄大師像」

美濃馬場の成立と人々の交流

泰澄大師によって白山が開かれたことで、加賀、越前、美濃の三箇所に白山参りに訪れる人たちの拠点が設けられました。

それらは、白山三馬場と呼ばれ、美濃馬場がある郡上には、白山参りの道である美濃禅定道を通じて東海地方を中心とする各地から多くの人が訪れたといえます。

長瀧白山神社や長瀧寺に伝わる「正和の壺」をはじめとする数多くの寄進の品々や、石徹白に伝わる奥州藤原氏寄進の「銅造虚空蔵菩薩座像」、全国各地に広がる白山神社にその交流のつながりを見ることが出来ます。郡上市にはこれらの白山文化にかかわる文化財が数多く残されています。



長滝白山神社に伝わる「正和の壺」



石徹白大師堂に伝わる「銅造虚空蔵菩薩座像」

今も残る白山を巡る暮らし

明治時代に行われた神仏分離や、修験道の廃止により、白山は信仰の山から自然を楽しむ山となり現在に至っています。

時代の流れの中で、昔のような白山登拝の姿は見られなくなりましたが、毎年行われる長瀧白山神社での「延年」の舞や、石徹白中居神社での「五段の神楽」などの祭礼芸能は連続と現在に受け継がれています。

また、石徹白から白山へ至る登山道は、今も石徹白地区のみならず、毎年整備されています。そのほか阿弥陀ヶ滝の「みそぎ祭り」など、白山に関連した行事は各地で行われています。みなさんの地区でも、それと知らずに行われている白山にまつわる行事があるかもしれません。



長滝白山神社で行われる「長瀧の延年」



白山中居神社で行われる「五段の神楽」

過去と現在、未来をつなぐ

白山開山1300年を盛り上げるイベントとして、平成26年度から、シンセサイザー奏者の喜多郎氏の呼び掛けで、和太鼓を通じた霊峰白山への祈りと市内外の和太鼓団体の交流連



霊峰白山太鼓まつりin郡上

携をめぐした「霊峰白山太鼓まつりin郡上」が市内を会場に開催されています。

また、これまでそれぞれの歴史を刻んできた白山三馬場では、白山比咩神社を中心に協力し、開山1300年を記念した三馬場めぐりのスタンプラリーを実施しています。

郡上市では、白山開山1300年という記念の年を、過去と現在、自然と文化、人と人、地域と地域を結び、未来へつながる機会として、市民のみなさんとともに作り上げていきたいと考えています。

問 白山文化博物館
85・2663